

夜の雪

小林美喜子

雪囲使ひ慣れたる竹の棹

荒星や耳に真つ赤な手を当てて

雪国の冷気に湿る炭俵

底冷や厨に香る夜の柚子

山国の陽の斑の残る冬林檎

風小僧雪の匂ひを纏ひくる

夜の雪あつさり止みて味噌ラーメン

寒雷の乗り来る佐渡の荒波に

篠竹の雪はね返す馬鹿力

雲飛んで雪嶺の立つ大旦

寒月や分厚き手紙封印し

日脚伸ぶ十一人のコーラス部